

B—20 コイガ (*Tineola biselliella*) の食害習性

第1報 成長に伴う食害量の変化および各種繊維に対する食害について

奈良女子大 ○辻井 康子
田中 光恵

1. 目的 羊毛害虫としてよく知られているコイガ (*Tineola biselliella*) は自然条件下では、1年に2~3

世代である。しかし研究室で25~30°Cで飼育すると32~40日間で1世代が終り、1年に約8世代産出する。産卵数は1頭あたり約50~55コであり、イガに比べると多くその生活力は旺盛である。今迄イガの食害習性、産卵習性について検討してきたが一応の成果が得られたので、さらにコイガについて、屋内害虫としての生態を明らかにし防虫性検定を行なう試験虫として用いるためにもまず食害習性について基礎的事項を究明し、イガと比較検討していきたい。

2. 方法 1) コイガ幼虫の成長過程に伴う食害量の変化について検討するため、30°C±1°C、75% RH中で飼育中の幼虫についてふ化後3日目ごとに1週間の食害試験を行ない、各時期の食害量を測定した。

2) ウール、木綿、ビスコースレーヨン、アセテート、ナイロン、ボンネル、テترون等の繊維について、繊維、糸、織物のかたちで食害試験を行なった。

3. 成果 コイガはイガ幼虫の如く巣を背負いながら移動することなく、薄く柔らかい円筒状の巣をつくり、巣は織物や容器に固定していることが多い。成長に伴って巣も大きくなり体重も増加し、ふ化後21日前後の食害量がもっとも大きい。ウールについてビスコース、アセテートの食害量が大きくイガと同系向を示した。